

日本人の



れもの

第2部 忘れ 華 森 清 範 清水 貴 真 主

伝統の継承

今こそ狂言はテレビでも見られませんが、昔は御所やお城で身分の高い人しか見ることができない芸能でした。

能舞台でしか演じてはいけない、他流派と一緒にやることはならぬと、制約もありました。しかし市井の人にもこの面白さを感じてもらおうやないかと、決まり事にとらわれずあちこちで演じたのが2世千作(10世千五郎)です。

「京都ではおかしに困つたらお豆腐にでもと言うけど、茂山はどこでも出て行くお豆腐みたいなやつや」と陰口をたたかれましたが、「お豆腐のように、どんな人にも喜んでもらえるや、もっとおもしろいお豆腐になるため頑張ろう」と言つたそうです。

お豆腐狂言をモットーに 伝統の世界では革新的な家

芸さえ真つ当であれば、どこで演じてかまわない。声をかけてもらえらることのほうがありがたいということから、「お豆腐狂言」をモットーにした、伝統芸能の世界では革新的な家であつたわけです。

どこの世界でも伝統を継承するのは困難ですが、こんな茂山家



茂山千五郎 能楽師大藏流狂言方

良き風情や人情を 絶やさないとしようにしつつ 新しい世界に通用することをやつていけばいい。



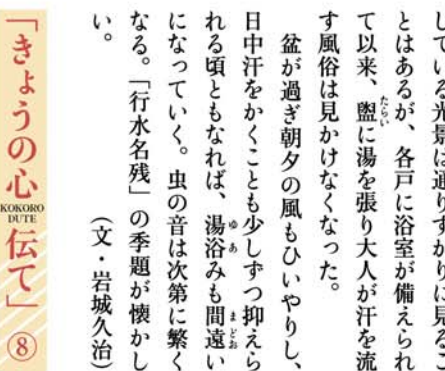
今年3月開催の「茂山狂言会」での親子三代出演「朝猿」。右手前が千五郎の長男・正邦。猿役は正邦の長男・竜正で、この舞台で初めて猿役を勤めた。

でも子孫になんとかして跡を継がそうと努力しています。親子の関係で物事を教えるのは難しいので、うちでは1代飛んで、おじいさんに習うのです。親は厳しいけれど、祖父が孫に教えるとか、「あとでおもちゃを買ったから」とか、つい甘くなりがちで当たりもやさしい。そんなことから孫は喜んで習うし、跡を継ぎやすくなるのではと思つています。



人と人とのつながり度 まちの良さは受け継がれる

生まれ育った京都が好きで、これから先も出たいとは思いません。時間のあるときは近隣を散歩しますが、繁華街や花街はすいぶん変わりが、以前の良き風情は薄れつつある気がします。しかし家の周りはあまり変わらず、変わらないことが心をなごませます。御所があり、出町の商店街があり、どこへ行つてもいろんな人と気軽に声をかけ合えます。



きょうの季寄せ(八月)

行水も 日まぜになりぬ 虫の声 小西東山

幼虫がビニールプールで水遊びをしている光景は通りすがりに見るとはあるが、各戸に浴室が備えられて以来、熱湯を張り大人が汗を流す風俗は見かけなくなった。 盆が過ぎ朝夕の風もひいやりし、日中汗をかくことも少すつ抑えられぬ頃ともなれば、湯浴みも間違いない。 「行水名残」の季節が懐かしい。 (文・岩城久治)

「きょうの心伝で」

中井康司 (亀岡市/59歳) 今、見つめ直す「時」 世の中はすべてが四六時中、そして一年中、休みなく動き続けている。それはあたかも「時」を無視して支配してしまつたかのようである。「休みなよ、一服して」と思わず言いたくなる。

京都には数多くの寺院があり、喧嘩から離れ、自分を見つめ直す所がいくらでもある。 《時を忘れて時を知る》 座禅を組んで無の境地に入れば、自分の愚かさを知らることになる。もちろん、あくせく働いて、そのご褒美で遊ぶのも、それはそれでいいだろう。しかし、ときには30分間じっとしているのも悪くない。何もせずとも時は流れる。そしてその流れた時こそが、忘れ去られた、人としての本分を導いてくれるのではないだろうか。

誰かの力によって無理やりそこに押し込められるのではなく、自らの意思で時と言ふものを、もつ一度見つめ直していかげなかな。 「きょうの心伝で」募集 皆さんの思う「日本人の忘れもの」は何ですか? 暮らしの中で忘れてはならないと思ふ日本人の心の承諾や、伝えたい京都に残る心遣いなどを寄せて下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、縦書き)住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝で」係まで。 E-mail: asakuraonohashi@kyoto-np.co.jp Fax: 075-222-2200 http://kyoto-np.jp/kyo_np/info/nwc/ へ応募して下さい。

古来より変わらぬ、故人を懐かしむ。 公益社はまごころと共に寄り添い続けます。

公益社 北ブライツホール (堀川柴明) 京都市北区紫野宮西町34 TEL:075-414-0420

公益社 中央ブライツホール (五条大和路) 京都市東山区五条橋東3丁目390 TEL:075-551-5555

公益社 南ブライツホール (堀川八条) 京都市南区西九条池ノ内町60 TEL:075-662-0042

公益社 西ブライツホール (五条西大路) 京都市右京区西院西満崎町14 TEL:075-322-0042

公益社 烏丸ブライツホール (因幡薬師) 京都市下京区烏丸通松原上ル因幡堂町728 TEL:075-351-7724

公益社 宇治ブライツホール (宇治槇島) 宇治市槇島町本屋敷102-1(京都文教大学前) TEL:0774-20-0042

公益社 滋賀ブライツホール (大津) 大津市朝日が丘1丁目12-5 TEL:077-523-0042



弊センター 永年の信用・まごころのご奉仕



本社:京都市中京区烏丸通三条下ル ☎0120-00-4200 TEL:075-221-4000 http://www.koeikisha-kyoto.com

「奥山の木の葉に隠れて流れていく水の音を聞いてから、いつも忘れられませんか。」 「音」は想っている人のうわさという意味が重ねられています。忘れたい人を思う心が、切なく詠いあげられています。

奥山の 木の葉隠れて 行く水の 音聞きしより 常忘らえず

「万葉集」第十巻より